

☆5月・6月・7月・8月・9月の活動☆

採集観察会のお知らせ

93年度採集観察会予定 神奈川県厚木市 「飯山観音」

第1回 5月16日(日) 10時集合 雨天決行

神奈中バス

厚⑬上飯山行 10:25
10:50

●集合地点：小田急線「本厚木」駅：自動改札を出たところ（北口側）⑯上焼ヶ谷行 10:05

駅前バス乗り場 4番から⑭⑮⑯バスでバス停「飯山観音」下車 ⑰宮ヶ瀬行 10:20

世話人は木村知之・高橋祐子

●今年度の採集観察会の日程は、5月16日、7月11日、10月17日、2月27日の予定です

合宿の案内 期日・所 7月24日(土)～26日(月) 紀伊半島「熊野」

宿泊 三重県熊野市木本町217 民宿ハタイ。世話人は新海明 (TEL.0425-22-2605)

●詳細は本通信の別記を参照して下さい

合同例会の案内 期日・所 12月5日(日) 10:00～ 駒場住区センター

世話人は熊田憲一。詳細は通信の次号(10月はじめ発行)で案内いたします

総会報告 総会にて今年度の事業が決定しました 4月25日(日)

駒場住区センター 司会進行：谷川明男 スライド：木村知之・新海栄一

(1)開会の辞 10:30 熊田憲一 (2)自己紹介 10:35～11:30

(3)午前の講演 11:30～11:45

I.池田泉「ヒメグモ幼体の生活」。ヒメグモの幼体の生態ははっきりしていなかったので、1992年に調査した。越冬時(11月～4月)は単独で常緑樹(ツバキ)の葉裏にくっついていること、落葉層にはいないこと、ときどき移動することが分かった。また分散直後および5月初めに最初に作る網はシート部を持たず、日をおってシート部を作るようになる。小田原市内での生活史が判明した。

(4)写真撮影・昼食

(5)総会 13:30 ①議長選出；議長(梅林力) ②報告事項；昨年度の事業報告(省略)および決算報告(別紙参照)，③今年度の年間計画 会誌発行(6月に65号、12月に66号、原稿が集まれば67号も)，通信発行(78～80号)，採集観察会・合宿・合同例会(別記)，☆承認されました④予算案(別紙参照)，☆承認されました ⑤質疑応答 ☆観察会で使える「クモ観察ガイド」(東京蜘蛛談話会の入会案内付)の作製が話題にのぼった。試案を新海栄一氏ほかが作製、実際に観察会で使ってみて改良を加えてから、印刷の検討に入ることが確認された。

(6)議長解任

(6)午後の講演 14:30～17:05 II.池田博明「分類上問題のあるハエトリグモ」。日本産のハエトリグモのうち、Harmochirus属、Phintella属、Marpissa属の問題点を紹介した。

III.木村知之「ネコハグモとセスジガケシグモの観察(親子の同居)」。両種とも親子の同居期間に、親が子の捕食を黙認する行動がよく見られた。複数個体の子が餌に食いつく。

IV.新海栄一・熊田憲一「高尾山北面と対面する八王子城跡南面の優占種7種からみたクモ類分布要因に関する考察」。徹底的な定量調査により、クモによる環境評価の方法を検討した。クモ-ハムシ指数は敵切な環境評価とはならなかつたので、ホシミドリヒメグモ-ジョロウグモ指数を提案し、これを用いて評価した。さらに検討していきたい。

(7)閉会の辞 17:05 新海栄一 (8)懇親会 (参加費 500円、懇親会費 1000円)

総会参加者；池田東，池田博明，梅林力，小沢実樹，笠原喜久雄，加藤むつみ，金野普，木村知之，久保田克哉，熊田憲一，柳沢新，小峰光人，笹岡文雄，佐藤幸子，新海明，新海栄一，鈴木成生，高橋祐子，谷川明男，畠守有紀，中島晴子，萩本房枝，平松毅久，牧孝匡，本木洋子，安田明雄

だんわ会 採集会のお知らせ

- 【テーマ】 ユアギグモ（通称）観察ツアー
珍種ユアギグモの卵のうが見られるほか，カラカラグモ，ナンブコップモ，ヤマジグモ等のユニークなクモが見られます。
- 【日時】 6月26日（土）～6月27日（日）
- 【場所】 東京大学千葉演習林（職員宿舎に一泊）
- 【集合】 午前10時集合 東京駅 京葉線ホーム
特急さざなみ自由席車両のりば先頭（1号車）
- 【交通】 東京 10:30 → (特急さざなみ9号) → 木更津 11:32
木更津11:54 → (久留里線) → 上総亀山 12:55
上総亀山より徒歩1時間30分（寄り道なし）。途中クモをじっくり見
れば3時間以上。
- 【諸費用】 6000円強（交通費 5000円弱+使用料1200円）
- 【持参する物】 26日昼食弁当，懐中電燈，ルーペ，採集用具，雨具
- 【申し込み先】 参加希望の方は，6月20日（日）までに，平松まで(TEL. 0492-33-8792)
連絡して下さい。
- 【次回】 次回のだんわ会は9月5日（日）を予定。内容未定

近況より 総会の出欠のお葉書から近況を転載させていただきました（順不同）

- 東條清（和歌山県海南市）；いつも欠席ばかりで失礼しております。本年もよろしくお願ひいたします。私は極めて健康で県下の山野をはしりまわっております。
- 嶋田順一（埼玉県飯能市）；小生40才，とうとう不惑の年となりました。談話会に入っても20年の成人式をむかえます。さらに刺激的な年になるように頑張りたいと思います。
- 田中一裕（北海道札幌市）；最近はクモの耐寒性の問題に興味をもち，実験室でたくさんのクモを殺しています。彼らの死に報いるためにも，きちんとデータをまとめて，発表しなければと考えています。
- 木庭奏（熊本県山鹿市）；御盛会をお祈りいたします。参加したいのですが，私の方も総会（クモのことではない）の準備で追い回される頃と思います。
- 田中穂積（大阪府富田林市）；毎回，欠席で申しわけありません。皆様によろしく。
- 中平清（高知県春野町）；欠席常習犯同様の者でまことに申し訳けありません。'92年10月2日，守月明比古氏が高知県幡多郡大月町月ヶ丘で採集され，小生が頂戴しましたサソリモドキを飼育しています。たいていの人はグロテスクな姿と見るでしょうが，その行動はなかなか愛敬があります。今年の観察目標は「えさの捕らえ方」としています。
- 休耕田を花木畠に変え，そこにいろいろな昆虫やクモを住みつかせるといった，まことに遠大尾な（？）計画を実行し始めています。
- 中島祥吉（東京都町田市）；興味がいろいろの方面に向います。クモはしばらくお預けです。

- 板倉泰弘（愛知県名古屋市）；環境調査を行う企業所に就職しました。中部蜘蛛懇談会の愛知県支部をつくり、刷新のため力を注ぎたいと思います（東京の会のことも宣伝します）。4月25日はこちらの採集観察会と重なるので欠席させて頂きます。
- 加村隆英（大阪府茨木市）；3月27日に関西クモ研究会のメンバーで京都市の深泥池にミズグモを探しに行ったところ、思いもかけず多数生息していることがわかりました！パンザイ！
- 萱嶋泉（東京都日野市）；御陰様で元気であります。若い会員が増加して活躍されているので嬉しいです。
- 佐藤幸子（神奈川県横浜市）；昨年12月に母を亡くしてから、毎日ポンヤリして居ります。『けいけん者』のお話では、半年この様な有様で過ぎるのだそうです。
- 佐藤尚子（神奈川県横浜市）；お花屋さんの支店をまかされてしまい、忙しくて休めません。すみません。
- 浅枝裕詞（東京都品川区）；2月21日の採集かんさつ会に行きたいと思います。お父さんも行くかもしれないけどいいかな？
- 小澤実樹（東京都世田谷区）；ご返事が遅くなり、申し訳ありません。海外にて、昨日帰国、そんな次第ですみません。海外もどこに行ってもクモが居たので、リラックスできました。
- 梅林力（東京都杉並区）；持ち上がりで、4年生の担任です。春休みは2日家にいただけで、毎日出勤し、休みなんていうものではなかったと思っています。今年も忙しい1年になると思いますが、何とかクモともなかよくしていきたいと思っています。
- 笠原喜久雄（埼玉県浦和市）；6月中旬から7月中旬頃、自然の中でのクモタケを今年は是非見たいと思っています。
- 久保田克哉（神奈川県川崎市）；大学院に合格しました。研究テーマはもちろんクモ！少なくともあと2年はクモの研究に没頭出来そうです。
- 萩本房枝（神奈川県横浜市）；三月中旬に北海道へ行きました。主に道東へ行ったので、雪一面の北海道を見れたのはとてもうれしかったのですが、クモには全然出会えないと思いましていき気持ちでいっぱいだったその時、朝、顔を洗って上を見るとオオヒメグモがツーとおりてきました。朝のクモは幸運を呼ぶクモと横浜では言われているので、クモに会えたこともうれしかったのですが、クモおかげでその後も良い旅が出来ました。
- 安田明雄（神奈川県横浜市）；クモについて興味はあっても、ほとんど知識がないので、もっと勉強しなくてはと思っています。採集会等に積極的に参加したい。
- 樹沢新（東京都文京区）；高校を無事卒業しましたが、浪人生活を送ることになりました。二月中に決まったことですが、報告が遅れまして申しわけありません。春休みは遊びました。3月28日から4月8日まで、ネパール、ブータンへ行ってきました。ブータンは初めてで、たいへん美しい国と華やかな衣装がとても印象に残っています。けっこういろいろなクモを採集したので、なにかあれば少しづつ報告していくつもりです。
- 笛岡文雄（東京都豊島区）；今年は採集に出ると異常に寒い日ばかり。その前日が暖かい日が続いている、ついていません。
- 千国安之輔（長野県豊科町）；健康状態が思わしくなくて困っています。もう無理は禁物です。高齢だから、だいじにしています。
- 菅波洋平（茨城県高萩市）；茨城県立自然科学博物館の建設が茨城県岩井市で進められております。県内外の植物・動物研究家によって標本採集が行われております。私もクモの標本を納める予定です。会の盛会をお祈りします。
- 松田まゆみ（北海道士幌町）；採集のできない冬の間に、同定とデスクワークを、と毎年思うの

ですが、予定をこなせないうちに春になってしまいます。

●西條雄介（大阪府豊中市）；ごぶさたしております。試験の度に日頃の勉強不足を痛感していますが、単位だけはとっているという状態です。この春は初めて海外旅行に行きます。インドに行ってみたかったのですが、ヨーロッパに変えました。どうもそういう方面ばかり優先している感じで。

●小野展嗣（東京都新宿区）；総会の日は、博物館の行事で高尾にいます。大雨が降ったら、出られると思います。上野の国立科学博物館本館で『台湾の山と小動物展』を1月12日から2月14日の間ひらきました。クモの標本や写真もいくつか展示しましたが、何といっても台湾の写真家の人が撮った山の写真がみごとでした。

●畠守有紀（滋賀県大津市）；KISHIDAIA, №64の笹岡さんのキシノウエは住居を出るかについて、野外で見た例があります。近江神宮で、92年9月15日にキシノウエが餌を探ろうとして蟻に飛びつき、逆に蟻にかまれてしまつて巣から出てしまったもの。それと同じ日に、巣の中にムカデが侵入して巣から追い出された例がありました。ただし、一瞬の事だったので写真も標本もないでした。残念。総会前日にいとこの結婚式に出てから行きますので少し遅れます。よろしくお願ひいたします。

●濱田龍一（福山市）；今年度の本業の方の報告等すべて終了し、論文にとりかかるべく机の整理などしています。総会に出たいのはやまやまですが、その頃はシロブチサラグモの調査で1日もあけられないので失礼致します。

○上記のほか、朝倉幹晴・小川新哉・鶴崎展巨・上原健・古川涉各氏より欠席の通知をいただいたております。

出版案内 高等学校『生物ⅠB』教科書（啓林館）

来年度から始まる高等学校の『生物ⅠB』。その教科書（啓林館）にクモの探求実験が取り上げられています（『クモの網張り』）。本文にもあちらこちらにクモがさりげなく登場しています。それもそのはずで、この教科書の執筆は池田が担当しています。啓林館からは2種類出版されていますが、主に『標準生物ⅠB』を担当しました（特に探求実験と第5章「生物の集団」）。使い勝手をお知らせ下されば幸いです。御希望の方は池田へお問い合わせ下さい。

1992年 クモ学 16大ニュース

1992年度のクモ学大ニュースを16件選んでみました。分類や採集に関する事柄を中心にして、自薦他薦によらず、寄せられたものを載せてあります。選んだのは池田（I），新海明（S）です。

★ 1 日本のゴミグモ Cyclosa属が整理された (S,I)

谷川明男氏による、日本産ゴミグモ Cyclosa属の集大成が発表された。ゴミグモの仲間には外雌器の形態が似ていて、識別しにくいものがある。谷川氏は4年以上の調査研究で、日本各地で雄を採集し、タイプ標本との比較をして、日本産のゴミグモに関するこれまでの疑問点を解決していく。8種類の新種を含んで、ゴミグモ属は22種に整理された。カラスゴミグモやギンメッキゴミグモ、ギンナガゴミグモといった今まで同定が容易だったものの中にも新種が含まれていたのは驚きだった。なお、谷川氏によれば、日本産のゴミグモの全貌はまだ明らかでないという。

★ 2 秋の採集会で126種を達成 (S,I)

東京蜘蛛談話会の採集観察会（5月、東京・横浜地区）で1日の確認種が126種を数えた。これは1日の採集記録としては最高と思ったが、記録を調査し直してみると、東京都八王子城跡で1989年5月に140種が記録されていることが分かった。したがって、過去2番目の記録であることが分かった。ちなみに1987年7月の丹沢大倉の採集会でも126種が達成されている。3番目は1980年10月の高尾山での117種であった。

★ 3 冬の採集観察会に参加者が23名 (I)

1993年2月21日の曇り空の東京都・横浜地区での、採集観察会になんと23名もの参加があった。この冬の時期はクモも見つけにくいし、なにより寒いことで参加者は少ないのが常であった。5名以下のときさえあった。しかし、なにか異変が起きたのだろうか、冬の採集観察会としては記録的な参加数で、参加者自身驚いていたようだった。クモに興味をもつ人が増えている現れだろうか。

★ 4 ウススジハエトリの学名が変更された (I)

ウススジハエトリは学名を *Yaginumaella ususudi* (YAGINUMA, 1972) とされてきたが、Lognov and Wesolowska(1992)は、ハバロフスク産と日本産の標本を比較し、これを *Yaginumaella striatipes* (GRUBE, 1861) と違いがほとんどないため、同種と判断して、前者の学名をシノニムとした。なお、ロシアでは、標高によって、別種 *Y. medvedevi* (PROSZNSKI, 1979) がすみわけているという。250~900m以上の高い方にウススジハエトリ、100~400mの低い方に *Y. medvedevi* という。なお、この属名も検討が進めば、変わるべき可能性がある。

★ 5 日本蜘蛛学会誌が1本化された (S)

1991年8月に鳥取で開催された日本蜘蛛学会大会で決定されたように、1992年4月をもって *Atypus* は *Acta arachnologica* に統合された。*Atypus* は100号が最終となつたが、創刊以来の多くの記録は貴重なものであり、今後の財産としてさらに発展すべく引き継がねばならないだろう。

★ 6 埼玉県でムツトゲイセキグモの卵のうが採れた (S)

1992年2月16日に埼玉県日高市の巾着田で行われた東京蜘蛛談話会の冬の採集会において、平松毅久氏は枯木に吊り下がっていたムツトゲイセキグモの卵のうを発見した。貞元氏を始めとし参加者一同色めきたったが、これ以外は発見できなかった。平松氏は前年のサカグチトリノフンダマシの採集に続き、埼玉で2連勝と絶好調であった。

★ 7 スズミグモ、伊豆半島で初記録 (S)

意外かもしれないが、伊豆半島で行われた過去二度の合宿を含むたび重なる採集調査において、スズミグモはかつて一度も採れなかつた。1992年7月の東京クモ談話会の伊豆雲見合宿において、念願のスズミグモが採集された。場所は南伊豆町の蛇石という場所のミカン畑であった。スズミグモを初めて見た参加者はその姿や色彩に感動していた。

★ 8 東京、神奈川で再びスズミグモ (S)

昨年の八王子に続き、今度は都内でスズミグモが採集された。採れたのはメスの成体で、1992年8月12日に杉並区の善福寺川の緑地公園で松浦祐司氏によるもの、大きな水平円網を張っていたとのことである。この他、東京都と神奈川県の県境にある「こともの国」でも発見されている。小田原市橋地区でも、新海栄一氏が発見した。ここ数年は関東付近で注意が必要だろう。

★ 9 ジョロウグモのミニシンポジウムが開かれた (S)

東京クモ談話会の例会で初めてのミニシンポジウムが企画された。1992年4月26日の内容はジョロウグモの生活史・網特性・餌・性フェロモンと多岐にわたり、時間を越えて熱心な討論がなされた。参加者も京都・大阪・滋賀・石川・静岡と各地にわかつた。

★ 10 世界初? クモグッズ大会が開催された (S)

たぶん世界で初めてのクモグッズの展覧発表会が、1992年9月19日に目黒区の駒場住区センターで行われた。ブローチや指輪、ネックレスといった装飾品やゲーム、置物、玩具などのさまざまなクモグッズが持ち寄られ、入手した場所や値段などの情報交換が行われた。今後も機会をみて随時開催したいとは主催者の弁。

★ 11 日本産のワシグモで新属がたてられた (I)

加村隆英氏は日本産のワシグモを検討し、マエトビトンビグモ (\leftarrow マエトビケムリグモ) を新属 *Sernokorba* に、ヒトオビトンビグモとシノノメトンビグモ (\leftarrow テオノグモ) を新属 *Hitobia* に置いた。

さらにフタオビトンビグモを新種として記載した(千国の図鑑p118の5)。

★12 日本産タンボグモ *Agroeca* 属が3種となった(I)

林俊夫氏は日本産のタンボグモをコウライタンボグモ、ミヤマタンボグモ、カムラタンボグモ(新種)の3種として発表した。ミヤマタンボグモ以外は稀産種であるが、このうち2月の採集観察会(東京都・横沢入地区)でコウライタンボグモが発見された。

★13 日本産ヒラタヒメグモ *Euryopis* 属が3種となった(I)

吉田哉氏は日本産のヒラタヒメグモ属を2種(シロカネヒラタヒメグモと新種フタホシヒラタヒメグモ)報告した。これで日本産のこの属は既知のヒラタヒメグモと合わせて3種となった。

★14 日本産オオドヨウグモ *Metleucauge* 属が整理された(I)

谷川明男氏はゴミグモ属に統いて、日本産のオオドヨウグモ属を整理し、メガネドウヨウグモとタニマノドヨウグモの既知種のほか、キタドヨウグモ(千国の図鑑p88の83)とチクニドヨウグモ(千国の図鑑p88の82。種名タニマノドヨウグモは誤り)を新種として記載した。

★15 日本産フクログモ属に3種が加わった(I)

小野辰嗣氏は日本産のフクログモ *Clubiona* 属を新たに3種報告した。徳島県からの新記録種バンドウフクログモ、神奈川県からの新種ハコネフクログモ、クマダフクログモがそれである。

★16 西表島のクモ相が着実に解明されている(I)

田副幸子氏は西表島から採集されたコサラグモを台湾から記載されていたタイワンコブヌカグモと同定し、報告した。なおその際、属を検討し、*Atypena*属に移した。谷川明男氏がベトナムにも生息するツルギハエトリを報告するなど、西表島には興味深い種が見られる。なお、さらに数種が谷川氏によって解明されている模様である。

★1と11~16までは日本蜘蛛学会のActa arachnologica40巻1号と2号に論文が掲載されています。

●日本蜘蛛学会へ入会の御案内 下記へお申し込み下さい

〒274 船橋市三山2丁目2-1 東邦大学理学部生物学教室 近藤昭夫方

日本蜘蛛学会 事務局

TEL.0474-72-1141

編集部からのお知らせ 原稿をお待ちしています。

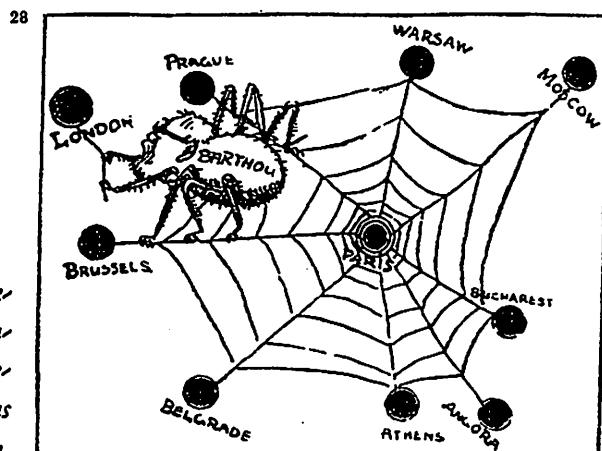
会誌編集; 〒248 神奈川県鎌倉市七里ヶ浜東2-3-1 七里ヶ浜高校 谷川明男

通信編集; 〒258 神奈川県足柄上郡大井町金手1099 池田博明

⇒ 笠岡文雄氏提供

「Narrenspiegel der
Geschichte」1938
Berlin 21頁より

Das Paktsystem erreichte seinen Höhepunkt unter Louis Barthou, der den französisch-sowjetrussischen Pakt vorbereitete. Wie ein unentrinnbares Netz sollte das System der Paktpolitik Europa umspannen.



採集観察会中間報告 東京五日市町横沢入地区
第4回 平成5年2月21日 (日) 曇のち雨

記録者： 笹岡文雄

参加者(50音順)： 浅枝裕詞、浅枝 望、阿部代始子、池田博明、伊東 宏、笠原喜久男、木村知之、国見裕久、久保田克哉、熊田憲一、小指美奈子、小峰光弘、笹岡文雄、貞元己良、新海 明、新海栄一、高津佳史、谷川明男、長井芳夫、中島晴子、平松毅久、古浜 隆、牧原くみ子
(23名)

キノボリトタテグモ、ジグモ、マネキグモ、ミヤグモ、コマツエンマグモ、ユウレイグモ
オオヒメグモ、オナガグモ、フタオイソウロウグモ、ヤリグモ、ホシミドリヒメグモ
ヤマトコノハグモ、ヒシガタグモ、バラギヒメグモ、ヒロハヒメグモ、コケヒメグモ、ツクネグモ
デーニツツサラグモ、アショレグモ、ヘリジロサラグモ、チビアカサラグモ、ユノハママサラグモ
センショウグモ、キザハシオニグモ、ヌサオニグモ、アオオニグモ、トガリオニグモ、オニグモ
ナガコガネグモ、コガタコガネグモ、オオトリノフンドマシ、ヨツデゴミグモ、メガネドヨウグモ
ジョロウグモ、カラフトオニグモ、ヤマジグモ、ヒメアシナガグモ、ヤサガタアシナガグモ
アシナガグモ、ウロコアシナガグモ、ヒラタグモ、クサグモ、ヤマヤチグモ、スジアカハシリグモ
イオウイロハシリグモ、アズマキシダグモ、フジイコモリグモ、シッチコモリグモ
ヤマハリゲコモリグモ、ハリゲコモリグモ、クリチャササグモ、ササグモ、コウライタンボグモ
ヤマトフクログモ、ヤハズフクログモ、ヒメフクログモ、トビイロフクログモ
ムナアカフクログモ、ネコグモ、イヅツグモ、シボグモ、キンイロエビグモ、キハダエビグモ
シャコグモ、キハダカニグモ、アマギエビスグモ、クマダハナグモ、ハナグモ、ワカバグモ
トラフカニグモ、ヤミイロカニグモ、ネコハエトリ、ヤハズハエトリ、オスクロハエトリ
ヨダンハエトリ、ヤサアリグモ、アリグモ、チャイロアサヒハエトリ、マダラスジハエトリ
アオオビハエトリ、ムツバハエトリ

以上81種

* 当日、タンボグモの一種が採集されました。後日の採集者の池田博明さんの同定の結果、コウライタンボグモ(フクログモ科タンボグモ属 *Agroeca*) *Agroeca coreana* NAMKUNG 1989合成体とわかりました。日本では2頭目の採集記録となりました。

夏の合宿案内

紀伊半島 貞良里子

東京蜘蛛談話会の夏合宿を今年度は関西・中部・三重・和歌山の各クモの会との共催で下記の要領で三重県熊野市周辺で実施します。多くの会員の参加をお待ちします。

日時 1993年7月24日(土)～26日(月)

宿泊 三重県熊野市木本町217 民宿 ハタイ Tel 05978-9-4333

一泊料金 大人 5500円

交通 ①電車利用の場合 名古屋—紀勢本線(特急 2時間50分)—熊野市駅
歩徒約10分—民宿ハタイ

②自動車利用の場合 東名阪—伊勢自動車道「勢和・多気インター」—
国道42号を南下(約 2時間20分) —鬼ヶ城トンネルを出てすぐ
—熊野市

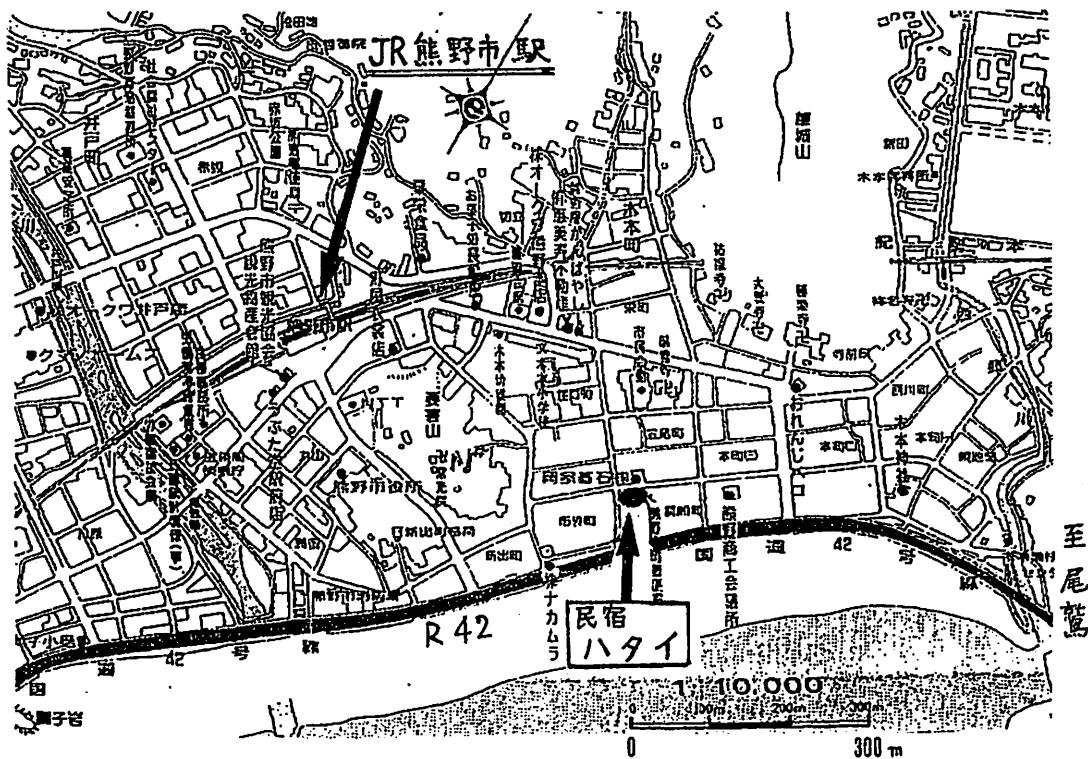
費用 宿泊・交通費以外に旅行保険および雑費として1000円がかかります。

申し込み 7月10日(土)までに葉書または電話で 新海 明まで

〒190 東京都立川市錦町 3-12-16-1010 Tel 0425-22-2605

(自動車で参加される方は、その旨明記して下さい)

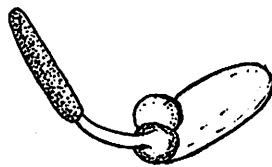
早めに申し込み下さい。参加申し込み者には費用やJRの時刻表などを別途ご案内します。



クモタケ (冬虫夏草) 一齊調査のお願い

新海 明

クモタケ *Nomuraea atypicola* は地中性のクモ類、おもにキシノウエトタテグモ *Latouchia typica* に寄生する冬虫夏草の一種です（図参照）。この分布は上田俊穂氏（1990）によって調べられ、本州の南岸を中心に分布していることが判っていますが、四国・九州・山陰での分布や本州における北限などについてはほとんど不明です。そこで、以下の要領でクモタケの一齊調査をしたいと思います。会員諸氏の御協力をお願いする次第です。



クモタケ

（カラー写真はフィールド図鑑
「クモ」のP. 16にあります）

調査期間 1993年6月～7月 調査地 日本全国

調査はこの期間内のいつでも構いませんが、7月4日（日）を一齊調査日とします。この1日だけでもやっていただければ幸いです。

調査方法 同封のアンケート用紙に記入して下記に郵送して下さい（申し訳ありませんが郵送料はご負担下さい）。調査地が複数にまたがる場合は、お手数ですがアンケート用紙をコピーして調査地別に記入してください。

送付先 190 立川市錦町 3-12-16-1010 新海 明 ☎ 0425-22-2605
(ご不明の点がありましたら上記までお問い合わせ下さい。)

調査結果 後日 Kishidaia および談話会通信に発表の予定です。

-----クモタケ一齊調査結果（アンケート用紙の抜きえ用）-----

1. 調査期間中にクモタケを (ア、みつけた。 イ、みつけられなかった。)
2. イと答えた方にお聞きします。付近にはキシノウエトタテグモがいましたか。
(ア、いた。 イ、いない。 ウ、わからない。)

調査地を（わかる範囲で詳しく）お書き下さい。

都道府県 市郡 区町村

3. アと答えた方にお聞きします。 ①調査地を上に記入して下さい。
②調査月日は 1993年 月 日
- ③クモタケはどのくらいありましたか。 (ア、1~10個 イ、11~50
ウ、51~100 エ、101以上)
- ④判る範囲で結構ですので、ホスト（寄生主）のクモの種類をお書き下さい。
()
- ⑤その他お気付きの点がありましたら記入して下さい。

4. 調査者のお名前は ()

清澄だより (3) 折木沢橋周辺

新海 明

一両編成のディーゼル車はのんびりと房総の山合いを走り終点の上総亀山駅へ着く。ホームからすぐにも町へ降りられるが、一応改札口を通る。駅舎は昔ながらの木造建築で、かつては日本中の駅がこんなだったのではと思わせるたたずまいをみせている。駅前の自動販売機で飲み物を求め、駅前の道を直進する。50mも行かないうちに県道につきあたると、そこを右へ折れる。暫く民家が点在するが、すぐに木々の間の道となる。壁のように続く土手の草間には初夏になるとササギモが群生する。歩みをのばすとトンネルに出会う。ここの中には多数のオオヒメグモが不規則網を張っているが、この網の中に5月頃よりクロマルイソウロウグモがいるのだ。少し暗いが気をつけてよくみると前年の卵のうが見られる。関東地方で最もてっとり早くクロマルが見られる所といえば、ここを置いて他にはない。トンネルを抜けると、そこは別天地・・・雪国だったとはいかないが、広がる田園と長閑かな風景は、いつも私の肩の力を抜かせホッとさせる。初夏の田の水面を走る風のすがすがしさ、照りつける盛夏の日差しを浴びて育つ稻の強烈な青さ、初秋に実った黄金色の田んぼ、冬の乾いた土色。全てが刻々と変化するが、どのように変わろうとも常に私の心象にかなう風景である。水田の間を縫って続く道を辿り、やがて再び県道へ。亀山湖にかかる二つの短い橋が見える。この橋の欄干にはズグロオニグモが網を張っている。足を止めて昼間に残されたその円網をみると、ズグロの子供達が網上に放置されている餌をせっせと拾い集めている。ひと昔前までは「盗み寄生」するクモといえばイソウロウグモ類しか知られていなかったが、それ以外にも類似の行動を示すクモは結構いることが判ってきた。吉田真さんによって報告されたドヨウグモ類の子供達などがそうである。さらに歩みを進めよう。暫く行くと「折木沢ボート場入口」の看板がある。ここを右に折れると道幅は狭くなるが、ここから先は郷台まで大きな脇道はない。ひたすらこの道を辿ればよい。この辺りまで来ると、水田にヘイケボタルが湧く。7月の宵に、満天の星空の下でホタルの群舞を私は何度か見た。今回の話の終点である折木沢橋はホタルの田んぼの少し先である。

折木沢橋。全長100mにも及ぶこの橋は1978年に千葉県の飲料・工業用水の確保のために造られた人造湖である亀山湖にかかっている。今はここにブラックバスやブルーギルといった魚が放され、釣り場として賑わっている。もはや、日本ではこんな魚しかいなくなってしまった。私はいつもこの亀山湖のほとりで弁当をひろげて一服するのを常としている。前面に広がる水面には湖に注ぐ細流から吐き出されて漂着したゴミ芥が多いが、湖の一部を囲む絶壁と緑、そして空は私にとってなぜかなつかしい風景なのだ。そのなつかしさは過去のものではなく、心の原風景としてのなつかしさだと思う。世に有名な景勝地はあまたある。たまに訪れるそれらの場所は確かに素晴らしいものである。だが、私の心の

中に潜むものは、むしろ路傍の雑草やそこらにある、あり当たりの崖、水の流れ、雲や空の色を好むようだ。一流的ものではないが、自らの見い出した景勝地。そんな所のひとつがこの折木沢橋なのだ。そんな所では飯を食いたくなる。水を飲みたくなる。なぜかわからないが、食い終わったあと、そっと息をつき周囲を眺める。水面を渡る風の色が見え、木々のささやきが聞こえる一瞬である。

1986年(昭和61年)8月19日(朝日)

珍種のクモの生息地
「運動公園」千疋地は
田町

前回、「珍種のクモの生息地」として紹介した「運動公園」千疋地は、田町にあります。この公園は、大正時代から昭和初期にかけて、田舎の農地として開拓されたもので、現在は、市街化が進んで、公園として整備されています。園内には、木々や灌木があり、また、池や噴水もあります。公園内には、珍種のクモの生息地として知られる「クモの巣」があります。この巣は、木の枝間に張り巡らされた網状の構造で、大きさは、直径約1メートル程度です。この巣は、珍種のクモの一種である「コガネクモ」の巣です。この巣は、年に数回、春と秋の間によく見られます。この巣は、珍種のクモの一種である「コガネクモ」の巣です。この巣は、年に数回、春と秋の間によく見られます。

珍種のクモの生息地
「運動公園」千疋地は
田町

前回、「珍種のクモの生息地」として紹介した「運動公園」千疋地は、田町にあります。この公園は、大正時代から昭和初期にかけて、田舎の農地として開拓されたもので、現在は、市街化が進んで、公園として整備されています。園内には、木々や灌木があり、また、池や噴水もあります。公園内には、珍種のクモの生息地として知られる「クモの巣」があります。この巣は、木の枝間に張り巡らされた網状の構造で、大きさは、直径約1メートル程度です。この巣は、珍種のクモの一種である「コガネクモ」の巣です。この巣は、年に数回、春と秋の間によく見られます。この巣は、珍種のクモの一種である「コガネクモ」の巣です。この巣は、年に数回、春と秋の間によく見られます。

珍種のクモの生息地
「運動公園」千疋地は
田町

介 梅林力氏提供

△ 新海明氏提供 1992.6.24(朝日)

△ ハピックス

すてきな人をハント
若い女性の頭に乗っかっ

か。
「引っ掛け」ため、それ
ともただのオシャレです
か。

P.
た巨大なクモ
の巣をかご
つた帽子。パ
リ北部の競
場でのワシシ
ヨットだ。涼
爽な帽子。A
写真、A

中国紀行2

子供たち

私はどちらかと言うと人見知りをする方だが、それは大人に対してのことと、子供とはすぐに仲良くなる。宿舎でも、庭で遊んでいる10才くらいの子供たちを見つけて声をかけた。ナイフを地面に突き刺して遊んでいる。子供の頃、私もやった「釘刺し」のようなゲームらしい。中国語はちっとも分からなかったが、なかなか楽しかった。

洞窟調査をやるところはたいてい田舎で、小さな子は中国人民軍のカーキ色の帽子と服を着ているのが多かった。しかし、お尻のあたりが何かおかしい。よくみると、ズボンのお尻が縦に裂けている。もちろん、すぐに「しゃがむ」ことでできるように。

その子にコカコーラをあげた。そばにいたおばあちゃんは、「謝謝！」と言って私に手を合わせた。仏様になったみたいで面はゆい。後で分かったことだが、コーラやジュースは貴重品らしい。一本3元だが、親の月給が200元くらいだから、高級品である。

中国政府は人口削減政策をとっている。晩婚奨励、子どもは一人だけ。これ以上人口が増えたら大変だから、この政策は当然だ。しかし、考えてみると、子どもたちは大変である。大人になると、両親のめんどうを見なければならない。それだけではない。両親もたいてい一人っ子であるから、今の子どもたちは両親と4人の祖父母のめんどうも見なければならないのだ。

こんな事情だから、子どもに対する親や祖父母の思い入れは相当なものである。北京では3才から英会話学校に通わせる親が増えているそうだ。2人目を生むとどうなるのか？ 通訳の徐さんの話では、「2人目を生むと減給、3人目を生むと首です！」

裏口もあるらしく、2人目、3人目でも役人に袖の下をつかませてごまかすやり方もあるというが、これは華僑など大金持ちでないとできないらしい。「中国も大変だなあ！」と私など暗澹としてしますが、当の中国人たちは底抜けに明るい。

調査終了

あっという間に洞窟の調査は終了した。10日間中国にいて、調査できたのはわずかに3日半である。でも、日本以外で調査するときはどこでもこんなものらしい。現地に行くまで、および大都市に帰るまでにかなりの時間がかかるのだ。

私たちが目的とした洞窟性の小動物の採集は、一言でいって不作であった。洞窟が荒れており、洞窟外の自然も不毛である。緑蒼き山々など、どこにもないのだ。最後の日に、川の源流に連れて行ってもらった。樹々も草を少なく、チョロチョロと力なく流れる谷川には、日本ならいくらでもいる水性昆虫もほとんどいない。

私の専門である網を張るクモなどは、1匹もいなかった。餌である昆虫がこれほど少ないなら、それを食べるクモなど生活できるはずもない。その辺の樹々にカササギが巣を作っていたが、彼らはいったい何を食べているのだろう。

さよならパーティーの後、われわれは夜行列車で北京に向かった。

北京にて

北京のホテルについてほっとする。宿料は高いが設備は完備しており、日本語も通じる。部屋から直接日本へ電話することもできる。電話料も安く、3分間400円。学生たちは喜んで、次々と電話をかけている。私も家に電話した。「ニーハオ！ I'm your husband. Are you fine？」電話に出た妻はなにごとかと仰天している。

その晩はみんなでペキン・ダックを食べに行った。評判の店で、かなり込んでいた。ぱりっと焼けた皮をネギと一緒に餃子の皮のようなもので包み、味噌をつけて食べる。最高。このネギはものすごく辛く、ペキン・ダックによく合う。

チンタオ・ピーチュー（青島麥酒）もうまい。日本のビールでは味わえないフルーティーな味だ。もっと冷えていれば言うことないのだが。中国ではなま暖かいビールをずいぶん飲まれた。彼らは何も感じないのでだろうか？

飲み足りないので、ハシゴする。場末の小さな暗い感じの店に入って、メニューを見るがどんな料理か分からない。適当に注文すると、とんでもないものも出てくる。豚か何かのペニスのスライスらしい。たいていのものは食べれるのだが、共食いをしているみたいでさすがに箸が動かない。

あっちのコーナーでは若い男女がいちゃいちゃしている。キスをしたり、もっとヘビなことをしている。公衆の面前で大したものだ。目のやり場に困ったが、他の中国人たちは平気なようすで、完全に無視している。日本なら冷やかされるだろう。チンピラがいたら大変だ。

中国はいちおう社会主义の国だから、ボルノなどはないはずだ。数年前まではボディビルの写真などをみて興奮していた（とある人は言っていたが、真偽のほどは定かではない）というが、ある意味では日本より進んでいるのかもしれない。

次の朝、宿質を払いフロントの横の大きなトイレに入ってびっくり。金モールの服を着たサンタクロースのようなおじいさんが、手招きする。何事かと思ったら、水道の水とお湯のコックを回してくれた。手を洗えと言っているらしい。手を洗うと、タオルを手渡してくれた。要するに彼はトイレ勤務のこのホテルの職員なのだ。

ちょっとショックだったが、学生に言わせると、仕事にありつけているだけ幸せだとう。人口12億人の半分が大人としても、6億人分の仕事がないと困るのだ。

タクシーで、北京郊外の中国科学院に行く。動物研究所の宋さんに会うためだ。彼は中国動物学会の副会長という大物である。山東省の洞窟で採集してきたクモを調べてもらい、それから研究所のコレクションをみせてもらった。トナカイからオオムカデまで。標本数は200万点。アジアでは最大の動物コレクションという。

ミンクやテンの標本もたくさんあった。「My wife loves it very much!」と言ったら笑っていたが、襟巻き用にくれはしなかった（当たり前だ！）。研究所のエレベーターに乗ってギョギョ！中には机と椅子があり、座って編み物をしていたおばちゃんが、長い棒でわれわれが行きたい階のボタンを押してくれた！

帰国

発送手続き

学生たちが荷物を送り返すのに付き合う。乾電池、標本瓶などのはとんどを中國側に進呈したが、荷物はそれでも200キロもある。北京郊外の空港に行くと、これはどこそこの役所の印がいるという。市内に戻ってその役所に行くと、いやこれは別の役所の管轄だという。結局一日走り回ったがダメ。

私は西川さんと尾島君と一緒に次の日に帰国したが、残った学生は悪戦苦闘。結局3日かかったらしい！中国の研究所の職員が付いていてこれだから、学生たちだけなら荷物を送り返せなかったかもしれない。

空港にて

ブーー。西川さんはたいがい、所持品で引っかかる。彼が着ていた釣り用のチヨッキから、出るわ出るわ！ナイフ、大型ピンセット、大量の小銭、標本瓶、吸虫管、などなど。ブザーが鳴るのは当たり前。何を考えているのだろう？係官の女の子に触られるのが楽しみでやっているとしか思えない！

私は人畜無害だから、さっさとバスして待っていたが、今度は尾島君が帰ってこない。どうやら税関の女の子に見とれていたらしい。「先生、むちゃくちゃ可愛子やで！」という。「話しかけてみたんか？」「そんな！」「アホか、おまえ。ちゃんと名前と電話番号を聞いてこんか！」そこで素直な尾島君は、税関の女の子にモーションをかけ、すごい目でにらまれて、すごすごと帰ってきた。お粗末！

最後のトラブル

珍しく（？）定刻どうりに北京を離陸。窓からみえる中国の大地はおそるべきもので、青々としているのは麦畑だけ。あとは延々と続く赤土である。春先で、落葉樹にまだ葉が付いていないせいもあるが、森林といえるようなものは見あたらない。雨が少ない上に、数千年にわたって伐採開墾されたためだ。中国はいずれ砂漠になる。そんな予感がした。

途中で上海に着陸。快晴・無風なのに「大阪と無線連絡がとれない」とかで、3時間ほど待たされ、乗客が騒ぎだした。もちろん日本人。一見して「企業戦士」と分かる。「こいつら、こっちが甘くしてたら、とことんさばりやがる！」といきりたち、「誰か英語の話せる乗務員はいないのか？」と怒鳴る。

仕方がないので、彼と一緒にスチュワーデスに話しかけ、事情を聞く。彼の剣幕に恐れをなしたのか、彼女は空港に走り込み、機長がすぐにとんできて離陸。たぶん昼寝をしていたのだろう。

そして日本。空からみる祖国は青々とした樹々に包まれ、霞んで見える。まさに山紫水明の国である。

会計だより 郵便振替口座 東京 7-74885 東京蜘蛛談話会

△費受領 1993年1月中旬～ (敬称は省略させていただきます)
△費支領 1993年4月下旬 (一般2800円・学生2000円)

1992年(平成4年)度

上原 健B134・本木 洋子C010.

1993年(平成5年)度

木庭 奏B121・松田まゆみB122・吉倉 真B125・藤井 靖浩B126・平松 肇久B127・蒼嶋 志門B128・
小川 新哉B129・井野 文雄B130・中島 祥吉B131・井伊 伸夫B133・井伊 佑介B133・上原 健B134・
阿部代始子B135・牧原くみ子B137・高田 勝B138・中平 清B139・坂寄 廣B140・横山 和正B142・
千国安之輔B143・高津 佳史B144・樺田 重雄B145・安藤 昭久B146・東條 清B148・諒助 哲夫C001・
永井 均C002・井原 府C003・佐藤 和昭C004・貝発 慶治C005・田中 徳久C006・木村 正明C007・
加村 隆英C008・野嶋 宏一C009・本木 洋子C010・佐藤 尚子C011・佐藤 幸子C012・安田 明雄C013・
新海 栄一C014・牧 孝匡C015・池田 博明C017.

1994年(平成6年)度

日下部光代B124・中島 晴子B136・樺田 重雄B145・加村 隆英C008・佐藤 尚子C011・佐藤 幸子C012・
新海 栄一C014・牧 孝匡C015・池田 博明C017.

1995年(平成7年)度

原 勝司B123・牧 孝匡C015・梅林 力C016.

1996年(平成8年)度

1999年(平成11年)度

原 勝司B123.

原 勝司B141.

1997年(平成9年)度

2000年(平成12年)度

原 勝司B123.

原 勝司B141.

1998年(平成10年)度

2001年(平成13年)度

原 勝司B123.

原 勝司B141.

会費の問い合わせには受付番号(B000)を明記
してください。

寄付

木庭 奏氏・阿部代始子氏・中島 晴子氏・牧原くみ子氏・原 勝司氏・
1993年度例会出席者一同。

会費の納入状況につきましては、宛名氏名に記入してある年号を御覧下さい。記入してある年号まで会費が
納入されております(1993年4月下旬現在)。会費は前納制ですので、まだの方はお早めに納入をお願い
します。

事務局(会計を含む)〒229 神奈川県相模原市淵野辺3-9-17-706 熊田 慶一
領収証の必要な方は振替用紙通信欄にその旨お書きください。

会員動向

(入会)

井伊 伸夫: 〒305	茨城県つくば市並木2丁目125-201	0298-52-8075
井伊 佑介: 〒305	茨城県つくば市並木2丁目125-201 (小学校2年生)	0298-52-8075
牧原くみ子: 〒154	東京都世田谷区弦巻2-3-17	03-3426-2834
佐藤 和昭: 〒232	神奈川県横浜市南区中島町1-10	

(住所変更)

上原 健: 〒241	神奈川県横浜市旭区東希望ヶ丘169	
板倉 康弘: 〒462	愛知県名古屋市北区池花町246 池下荘201	052-903-1434
木村 正明: 〒900	沖縄県那覇市泊2-6-4 仲地外科医院内	098-864-0709
熊田 慶一: 〒229	神奈川県相模原市鴻野辺3-9-17-706	0427-50-2404

訂正・変更等がありましたらお早めに事務局熊田までご連絡下さい。

「ほくの母には、とてもむりです。母はクモを、きたなくて、毒を持っているのだと思っています。」

ピートがさけんだ。すると、ジュピターがいった。

「ところが、クモはとてもきれい好きで、子ネコのようにいつも自分のからだを、きれいにしている。クロクモのめずは、たしかに毒グモだが、こちらから手をださないかぎり、かみつかない。タランチユラのような大グモでも、いっぱいに考えられているほどきけんなものじゃない。科学的なテストによると、なかなか人間をかもうとしないそうだ。

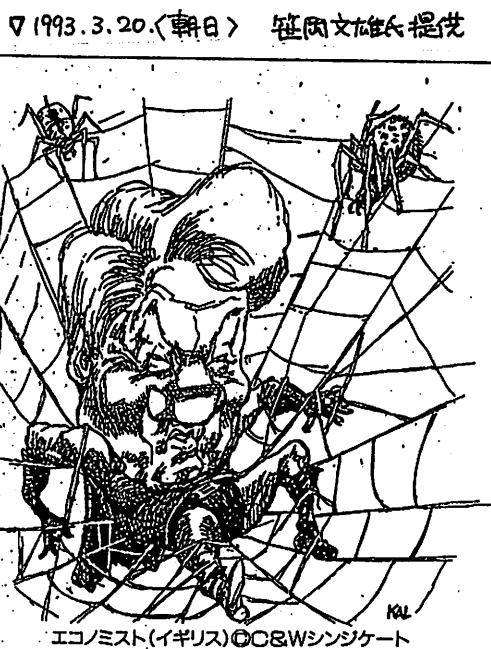
ほとんどのクモ——とくに、このあたりにいるクモは毒がないし、有害な昆虫をたくさんたべて、人間の役に立っているんだよ。」

「そのとおりだ。」

ジャロ王子はうなずいた。

「バラニアには毒グモはない。わたしたちが『ボール王子の銀グモ』とよんでいるクモは、この国でいちばん大型の種類で、すがたもなかなかきれいだ。全身が金色のもようのある黒色で、ふつうは家の外に巣を張るが、ときどき屋内に巣を張ることもある。」

△ P.A. - ジュピター 「カリオニニア少年探偵団 銀グモの秘密」 (偕成社)より [池田千洋]



エコノミスト(イギリス)OOL&Wシングレート

追加の連絡があります。

④ 採集観察会について

世話を人の木村氏の連絡TEL. 044-955-1610

⑤ 合宿について(新海明氏より)

1泊の料金は昼食費その他を含めと7000円程度
なります

⑥ 近況(八木沼健夫氏より)

本年の大会には参加できず残念ですが、皆さんによろしく。

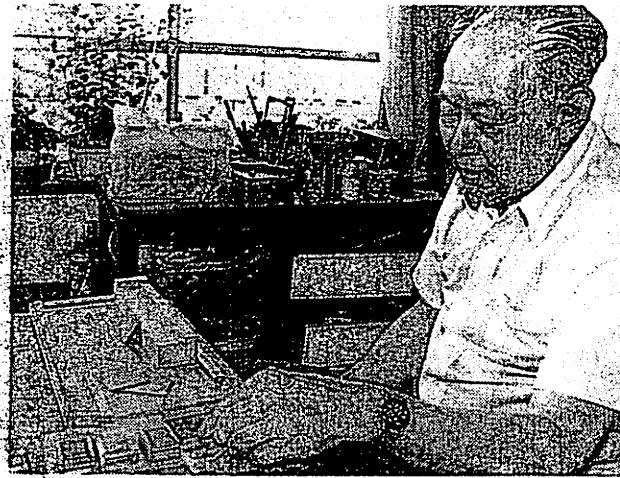
下記の事項をお伝えいただければ幸いです。

1. 本年の日本蜘蛛学会大会は、和歌山県美里町田の未来塾（海南市
の東方20km）で、関西蜘蛛研究会・和歌山クモの会協賛で開催さ
れます。少々へんびな所ですが、クモが豊富で観察に好適の場所です
ので、ぜひ参加下さいますようお願いします。本年は観察エクスカ
ーションに重点を置く予定です。
2. 秋田の福島さんから、同封の新聞記事について質問がまいりました。
写真の化石はクモであるかどうか、クモであれば何であるか教え
てほしいとのことです（御意見や御感想をお聞かせ下さい）。
3. シノビグモは、Dr. Sierwald によって Rhoic
ininiae と認められましたが、科は決定できず Lycosoid
ea として扱っています。
4. 中国蝶形学報 1(2) がでました。分類関係では、サラグモ・
ハエトリの記事があります。

総会の御盛会を祈ります。

1993. 4. 19

八木沼 健夫



ホンチ箱（手前）を作る藤井さん

「伝統の音機かしてホンチ遊びを後世に残すよ」といふ有志らが「横浜ホンチ保存会」を結成して今年で満10年。平均年齢五十歳のメンバーたちは、小・中学生対象に大会や講習会を開いたり、ホンチの模型作りを熱心したことでも発足当時に至るまで真心を尽して活動を続けてくる。

「ホンチ」とは標榜の方で争う。この属性を活用し盲でハエトリクモの糸口で小さなリングの上で戦わハエトリのオペのこと。体せるのが「ホンチ遊び」。長さ七~八ミリ。四四から五、明治の初期以来、漁師たち月にかけて脱皮し、メスをが始めた遊びだ。これまで獲得したり繩張りをするた八三年に発足。「こんな樂しい遊びがあるんだどうかことを子供たちに教えたか

『クモ相撲』に興奮

あす横浜で大会開催

保存会
満10年
「ホンチ大会」は横浜市磯子区久良岐公園で三日（予定）に、「ホンチ講習会」は五日と、西区の青少年センターで開かれる。問い合わせ同保存会(045-332-2450)

た子供たちに配り、贈られている。木と針金を使いたホンチの実物大の模型を器用に作り、評判だ。たた、横浜の開拓とともにホンチの数も減り、今は庭先などでなかなか捕まえられなくなった。「それでも、昔勢じて出で捕りにいったらして…。子供たちの私も私たち大人の方が夢中になってしまふんです」と佐藤さんはニッコリ。



いたい食の生態系を守るために、毎年開かれる小・中学生を対象の「ホンチ大会」を示す。横浜の好評だ。

タマハコの藤井雅彦さん

企画が歴史屋などで売つてた「ホンチ箱」と同じ

物を作。講習会に参加した子供たちに配り、贈られる

東京蜘蛛談話会1992年度会計決算報告

科 目	収 入	支 出	備 考
会 費	801, 100		欄外①
寄 付	15, 715		
パックナンバー	78, 810		
別刷り代	27, 500		
会誌作製繰越	160, 000		
利 息	10, 515		
会誌作成費		425, 500	欄外②
会誌発送費		124, 730	欄外③
談話会通信費		38, 504	通信作成発送・連絡等
その他送料・報酬		33, 734	事務・連絡等と局報酬
事務一般費		9, 520	事務連絡・消耗品
前納分会費繰越		342, 600	
特別会計へ繰入		119, 052	
計	1, 093, 640	1, 093, 640	
収 支	1, 093, 640 - 1, 093, 640 = 0		

東京蜘蛛談話会特別会計

積立金	601, 473		1991年度までの積立金残高
1992年度から繰入	119, 052		
報酬および謝礼		90, 000	欄外④
収 支	720, 525 - 90, 000 = 630, 525		
積立金残高	630, 525		1992年度決算時現在

『 横 外 』

① 未納分後納	14, 200	② 63号	113, 400
1992年度前納繰越	248, 800	64号	112, 100
1992年度当年度納入	195, 500	65号	140, 000*
1993年度前納繰越	272, 600	版下作製報酬	60, 000
1994年度以降前納	70, 000	合計	425, 500
合計	801, 100	* 予算対応繰越	
③ 63号 41, 520		④ 58号総目録・新版復刻版下作製報酬	
64号 37, 440		および表紙作製謝礼	
他 770		報酬：新海明氏 5, 000	
65号 45, 000 (会員数対応繰越)		熊田憲一氏 35, 000	
合計 124, 730		謝礼：小澤寅樹氏 50, 000	
		合計 90, 000	

以上相違ありません。
1993年4月25日

会計：熊田 憲一④

監査：加藤輝代子④・鈴木 成生④

東京蜘蛛談話会 1993年度予算

科 目	収 入	支 出	備 考
会 費	492, 800		欄外①
刊行物作成費		310, 000	欄外②
会 誌 発 送 費		89, 000	欄外③
談 話 会 通 信 費		53, 044	欄外④
切 刊 送 料・報 酬		28, 500	欄外⑤
事 務 一 般		10, 000	
予 備 費		2, 256	
計	492, 800	492, 800	

《欄 外》

(会費:一般2, 800円・学生2, 000円)

① 一般 171名 478, 800
 学生 7名 14, 000
合計 179名 492, 800

④ 通信78~80号
 (72X178X3) 38, 448
 例会用返信葉書
(41X178X2) 14, 596

② 会誌66号 150, 000
 67号 150, 000
通信78~80号 10, 000
合計 310, 000

合計 53, 044

③ 会誌66号(250X178) 44, 500
 会誌67号(250X178) 44, 500
合計 89, 000

⑤ その他の送料 10, 000
 本部通信事務費 2, 000
 事務局通信事務費 5, 000
 編集局通信事務費 5, 000
 通信編集通信事務費 6, 500
 (編集・通信は発送報酬を含む)
合計 28, 500

1993年4月25日

事務局会計 熊田 慶一

1992年度会員動向(1993年3月31日現在)

会員 178名(一般会員171名・学生会員7名)

(前年 158名(1992年3月31日現在))

退会 2名(希望1名・規約1名) 入会22名 休会扱い1名